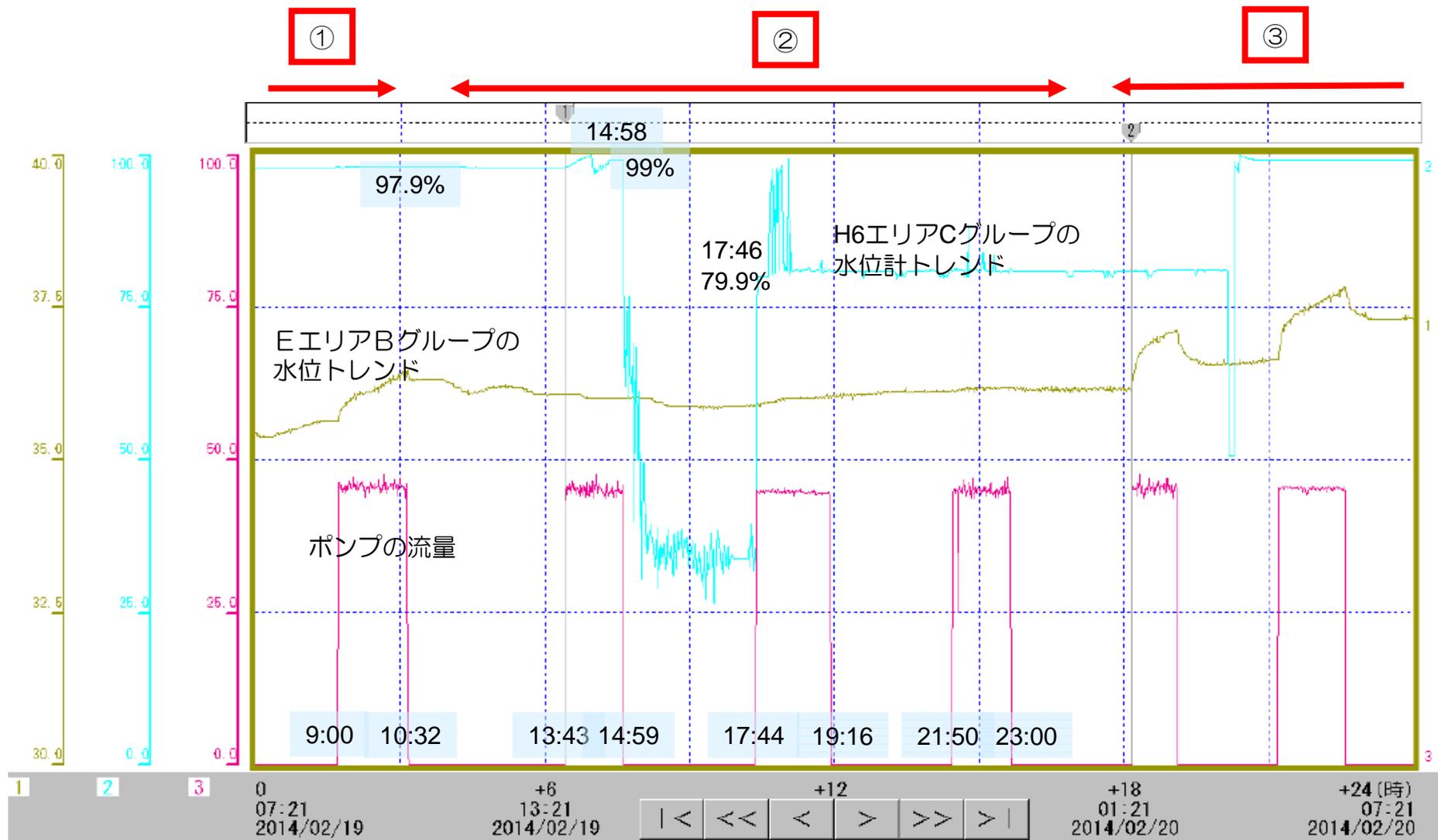


# 福島第一原子力発電所 H6エリアタンク上部天板部の フランジ部からの水の漏えいの調査状況について

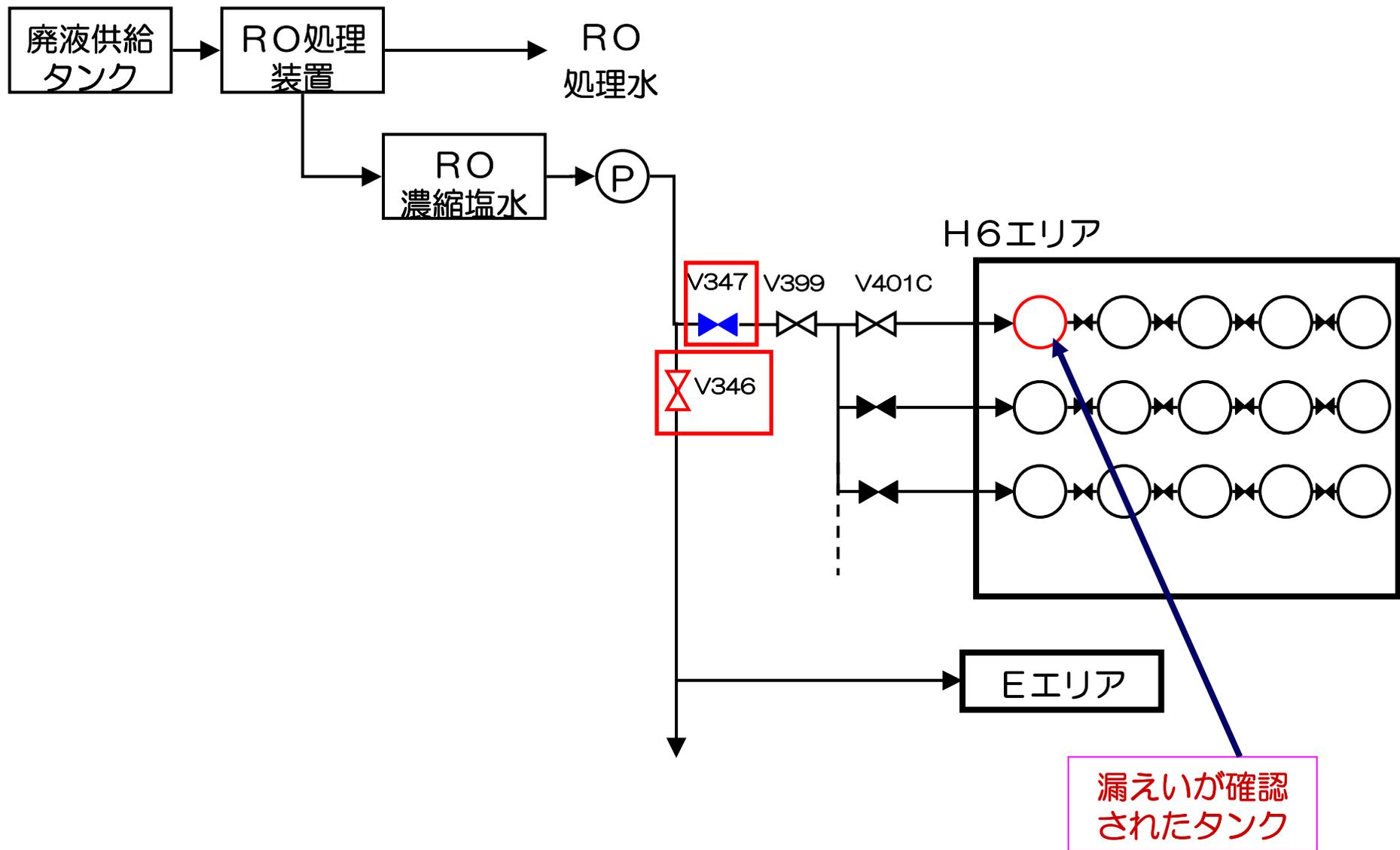
< 参考資料 >  
平成26年2月21日  
東京電力株式会社

- 堰外に漏えいした汚染水約100m<sup>3</sup>のうち、約36m<sup>3</sup>を回収済。引き続き、漏えい水および土壌の回収に努める。漏えい拡大防止策を実施していることから、海への流出はないものと考えている。
- これまでの調査の結果、2月20日の報道発表において、「閉まっていた」とお知らせした弁については、特定の時間で「開状態」であった可能性が高いことが判明した。
- 当該弁が「開状態」となっていた原因は現時点で不明であり、今後も調査を継続する。
- 水位計の警報発生に伴い、実水位の確認を行うべきであったこと。  
ポンプ起動状況と受入タンクの水位トレンドから異常の兆候を早期に発見し対応すべきであったこと。  
以上の反省をふまえ、警報発生時の対応や、水位トレンドの異常発見時の対応の見直しを実施しているところ。
- 雨樋から漏えい水が堰外へ流出したことから、雨樋の設計改善も検討する。

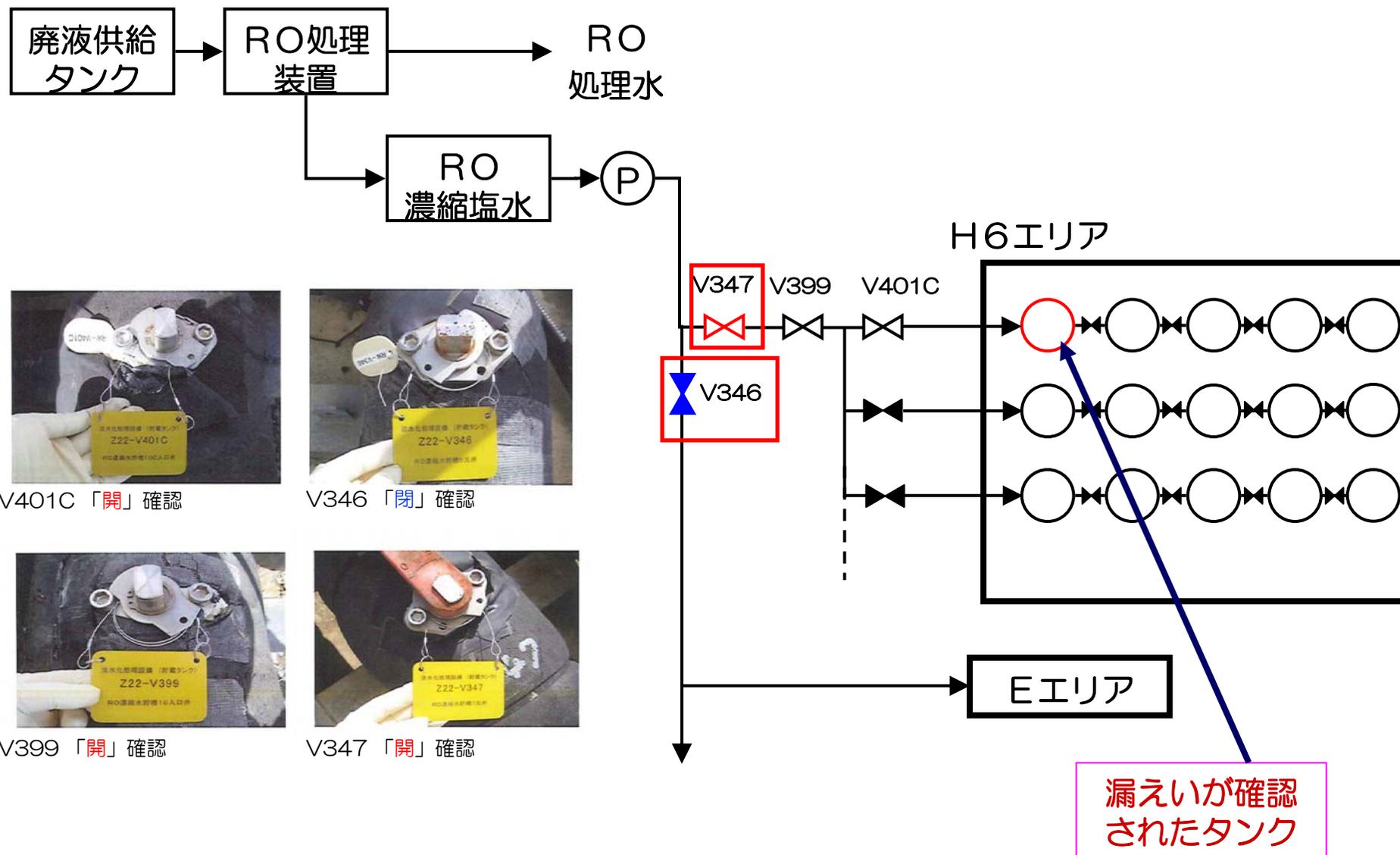
# タンクの水位トレンドとポンプの起動状況



# 淡水化装置処理後水（濃縮塩水）移送配管概略（2月19日 状態①）



# 淡水化装置処理後水（濃縮塩水）移送配管概略（2月19日状態②）



V401C 「開」確認



V346 「閉」確認

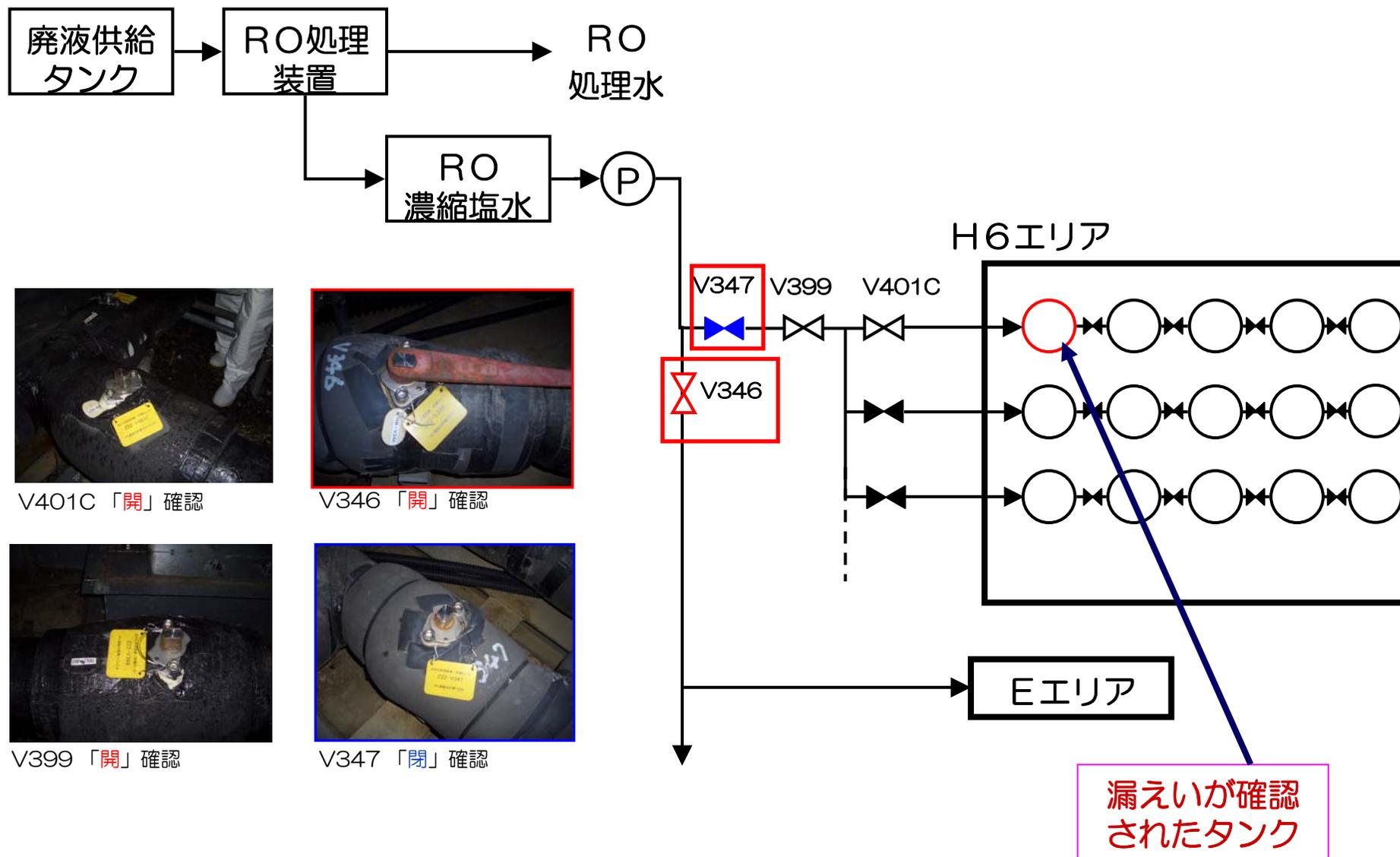


V399 「開」確認



V347 「開」確認

# 淡水化装置処理後水（濃縮塩水）移送配管概略（2月20日状態③）



# 今後の予定

---

○弁の開閉状態に関する調査を継続する。

○当面の対策として以下の対策を実施する。

- 汚染水の移送ポンプの起動状態と移送先タンクの水位が連動していることを定期的に監視する。
- この連動に異常がある場合には、現場にて弁の開閉状態・移送ラインの構成を確認する。
- タンク水位の「液位高」警報がでた場合には、現場にてタンク天板から水位を確認し、異常の有無を確認する。